

第 6 次大牟田市総合計画 まちづくり総合プラン(案)
基本構想部分（人口を除く）に関する審議会での意見・要望

I 計画策定の意義

II 目指す都市像

- (1) 都市像は目標年次を設定しないとあるが、中長期の期間設定は必要ではないか。
- (2) 都市像達成の度合いを計るためには、人づくりの指標が必要ではないか。

III 計画の位置付け及び期間

IV 人口（審議未実施）

V 土地利用の方向性

- (1) 耕作放棄地が増えているのは高齢化や人口の減少が原因と思う。市街化調整区域については農業以外では売買しにくく、この縛りがある以上、「地域の実情に応じた計画的な土地利用」の実現は難しいのではないかと。そういったことへの対策も盛り込んでおいてほしい。
- (2) 人口減少が進む中、国が示す「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の観点のみならず、大牟田市の実情に沿ったコンパクトシティのあり方を検討する必要がある。

VI 本市を取り巻く社会背景と課題

- (1) 「観光のインバウンド対応を図ることが必要である」と記述すべきではないか。また、交流人口の増加のために観光事業の強化を記述したが良いのではないかと考える。市の観光基本計画は、平成 14 年のままであ

り、国が観光立国を打ち出す中、世の中の流れから遅れている。

Ⅶ 大牟田市総合計画 2006～2015 のふり返し

- (1) 改善していく意志を示すためにも、重点的課題を記載したほうがよいのではないか。
- (2) 2016～2019 年に大牟田市が主体的に行ったことは何か。また、事業全てが順調に見え、できたこと・できていないことがわからない。
- (3) 「はぐくみ」において、「文化芸術に触れる機会」という記載があるが、若い人たちが主体的に取り組んでいるもの（高校生によるプロモーションビデオの制作やダンスチャレンジ等のイベント）もあるので、そのように記載したほうが良いのではないか。

その他

- (1) 総合計画というとなんでもかんでもになりがちだが、取り組む事業には優先度も考慮しなければ4年間という短い期間では結果が見えてこないと考える。
- (2) まちづくり総合プラン基本構想の構成については、課題を示して、その解決のための事業のふりかえりとしたほうが分かり易いと考える。
- (3) 価値観の多様化をふまえ、満足度と重要度だけでなく、福岡県が採用している「幸福実感度」も指標の一つとして検討いただきたい。
- (4) 地域商社の設立やふるさと納税の活用など、まち全体で収入を得ていく方向性が必要と考える。
- (5) 市民意識調査では「子育て」「教育」「産業の振興」はいずれも重要度が高いが、一方でスポーツや文化は極端に低い。まちが発展し豊かになることも必要だが、人が豊かに暮らすにはスポーツや文化も大事。基本目標の1～3にもかかることであり市民の意識を上げていくことが必要。
- (6) 小中学校の学力について示されていないのはなぜか。福岡県内は公表

していないのか。保護者としては、やはりランキングが気になると思う。

- (7) SDGs を達成するためには、企業に対しての補助が必要だと思う。また、ダイバーシティーやCO₂削減等を担うのは企業ではないかと思う。
- (8) 計画の中にテクノロジーの恩恵を盛り込んでいただきたい。地域交通はコミュニティバスのような人とのつながりも大事だが、自動運転等の実証実験の積極的な誘致をお願いしたい。
- (9) 30以上の自治体がRPA等の実証実験を行っている。大牟田市も単純な事務処理等はテクノロジーを活用し、その恩恵を受けるよう積極的に取り込んでいただきたい。